

投与プロトコール 1コース21日間 4コース 《開始時基準 PS:0~2 75歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
プレメディ・内服	アプレピタントカプセル	1錠(125mg) 1錠(80mg)	Day1 : デキサート点滴開始の30分前 Day2,3 : 朝食後		
ルートKeep	生理食塩液	500mL	Day1	2時間	
プレメディ	アロキシ注バッグ 0.75mg/50mL デキサート注 6.6mg/mL	1袋 1V	Day1	30分 点滴	
①	エピルピシン 90mg/m ² 生理食塩液	mg 50mL	Day1	15分 点滴	
②	エンドキサン 600mg/m ² 生理食塩液	mg 100mL	Day1	30分 点滴	

<使用上の注意点>

【エピルピシン】

- ◆他のアントラサイクリン系薬剤使用量が限界量に達している患者は禁忌。
⇒ ドキソルピシン:500mg/m²、テラルピシン:950mg/m²、ダウノマイシン:25mg/kg
- ◆心筋への蓄積毒性があり、総投与量が900mg/m²を超えるとうっ血性心不全を起こしやすくなるので注意。
- ◆壊死性抗がん剤であり、血管外漏出により壊死を起こすことがあるので十分な観察を行うこと。

【エンドキサン】

- ◆出血性膀胱炎:血尿が出現することがある。予防として水分摂取を心がける。
- ◆室温でも揮発することがあるので、調製や廃棄等には十分に注意する。
- ◆ベントスタチン併用禁忌。

<減量基準>

◆エピルピシン 肝障害時の減量の目安

T-Bil 1.2~3.0 mg/dL or AST 2~4 × ULN	T-Bil ≥3.1 mg/dL or AST >4 × ULN
50%減量	75%減量

ULN:施設基準値上限

◆エンドキサン 腎障害時の減量の目安

Ccr (mL/min)	>50	10~50	<10
	減量なし	25%減量	50%減量

◆エンドキサン 肝障害時の減量の目安

T-Bil 3.0~5.0 mg/dL or AST >180 IU/L	T-Bil >5.0 mg/dL
25%減量	中止

◆エピルピシン 前コースにおいて、以下の有害事項を認めた場合の減量の目安

	基準値	一段階減量	二段階減量
エピルピシン (mg/m ²)	100	75	60

- (1) Grade3以上の発熱性好中球減少を認めた場合
- (2) 7日間以上のGrade4の好中球減少を認めた場合
- (3) 好中球が正常またはGrade1~2の好中球減少を伴う感染がGrade3以上を認めた場合
- (4) Grade3以上の血小板減少を認めた場合
- (5) Grade3以上の非血液毒性を認めた場合(悪心、嘔吐、全身倦怠感を除く)